

ロゴマーク製作において軸としたもの



まずロゴとは組織やブランド・施設やイベントの顔となるものです。

例えば上の3つのロゴマークは一目見ただけでどこの企業か視認できますよね。

ロゴマークは **企業のメッセージや姿勢などをふさわしい造形で表現する** ことが大切になると考えています。

一つの業種にも多様なロゴマークがありますが、

・ 一目見てどこの企業かわかること

・ その会社ならではの独自性

・ お客様に持ってほしいイメージ

の3つをロゴマークを作っていく軸とし、製作に取り組みました。

高槻ライフケア協会の立ち位置

立ち位置を確認することで高槻ライフケア協会と調和性の高いデザインの方向性を決めることができます。

ロゴマークにはかわいいものからクールなもの、高級感、チープさを表現するものなど、たくさんの種類があります。



商品への信頼

独自性

高級感

極端にはなりませんが、しまむらとエルメスのシンボルマークを見比べたとき、見て感じたイメージは会社の事業と重なる部分が多いのではないのでしょうか。もしこのシンボルマークが逆だったなら、本来のイメージを想像するのは難しくなると思います。

こういったイメージの相違を防ぐためであり、**立ち位置を把握する作業が方向性の確認**につながります。

高槻ライフケア協会の立ち位置

「親しみやすい」と「クール」、「普遍性」と「独創性」でどちらの要素が適切か、業種やもたれるイメージから方向性を設定しおおまかに絞りました。

親しみやすい

安心を提供するサポートのお仕事にはやはり親しみやすさが重要だと考えます。
パツと目に入るものに親しみやすさを取り入れることで利用者や職員の方を映す鏡の役割にもなります。

ケアが身近になる可能性は誰しものが抱えているものです。
生きていれば必ずどこかで通ずるものだと思い、普遍的な要素を取り入れることにしました。

普遍性

ターゲット

- ・介護が必要なご年配の方
- ・介護系に興味を持つ若者
- ・障害を持った方

クール

独創性

ポイント1 前回案よりシンプルに

前回提案した案よりもわかりやすくしてほしいと要望をいただき、前回案をもとに修正していくことにしました。「一目見てわかる」視認性の高さの検討を進めます。

ポイント2 この会社ならではの独自性

高槻ライフケア協会の企業理念や採用コンセプトの考え方を組み込むことでここにしかない独自性を生み出します。言葉にすると長くなる企業理念も抽象的な造形に意味を込めることで簡潔に表現することができます。

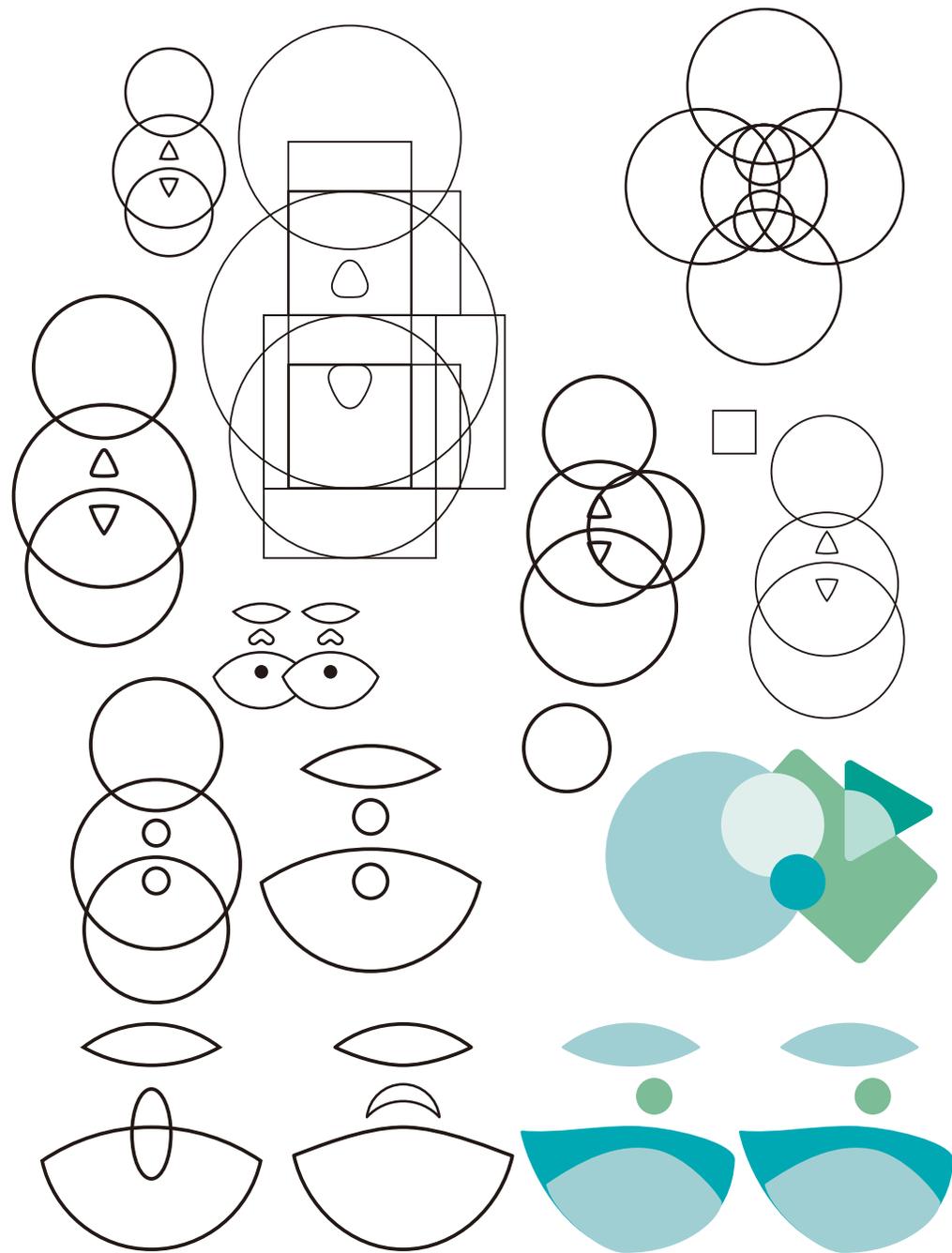
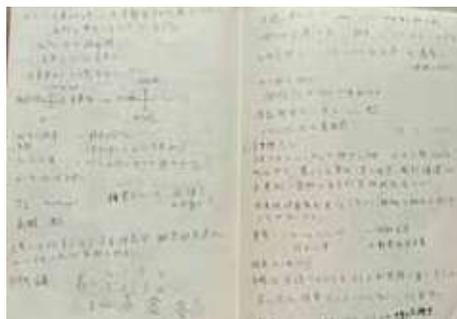
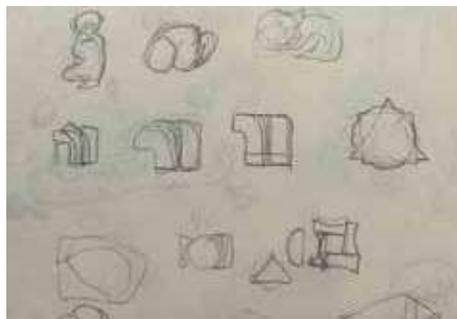
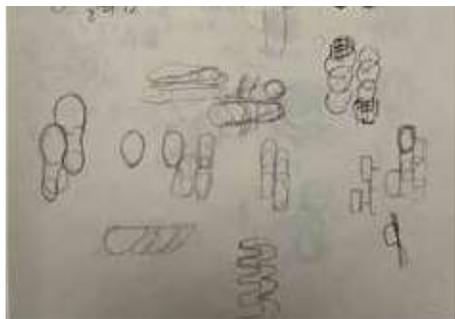
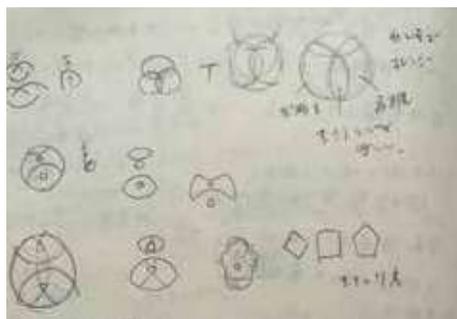
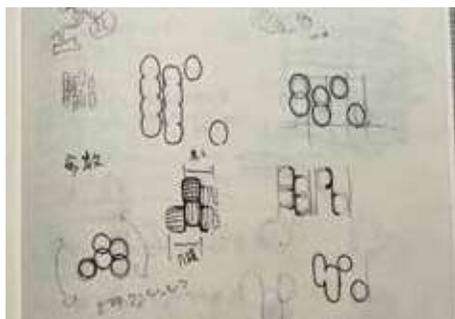
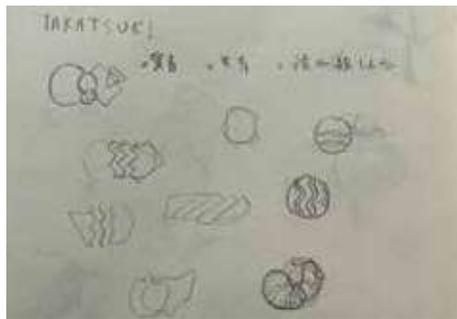
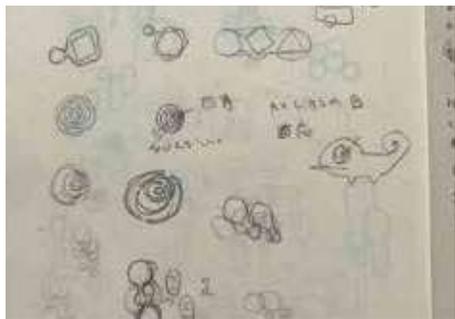
ポイント3 お客様にもってもらいたいイメージを

ここでは採用コンセプトにあった「介護される人と介護する人が笑顔で過ごせる法人」と設立趣意の「自己決定や権利擁護が日常的になる社会を作る」の言葉が魅力的であると感じ、指標にすることにしました。

モチーフの設定

介護系のロゴマークはこれだよね。といった既にイメージがついているモチーフを選んでしまうと、同じ業種でよくみるデザインから抜け出すことが難しくなります。

他と何が違うのか？高槻ライフケアの魅力や将来のビジョンを組み込み、簡潔に説明できるように整理しました。



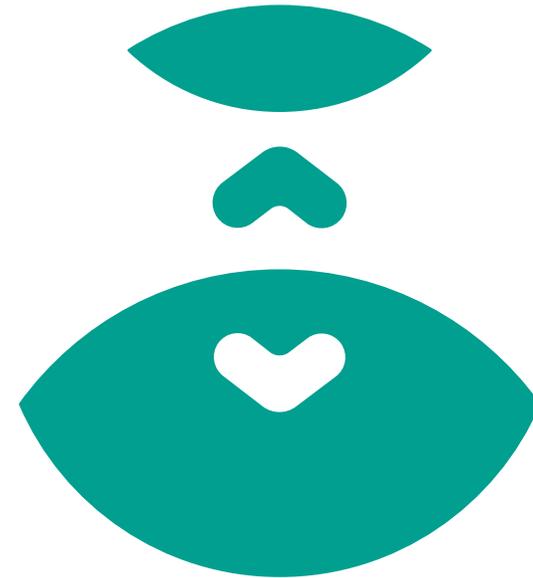
製作過程

お互いがいてこそその重なり

高槻ライフケア協会の設立趣意には「さまざまなハンディをもちつつも一人の人間として町の中で暮らしを営み、自己決定、権利擁護が日常的で自然になるような地域社会づくりをめざしている」と書いてありました。障害があることによって困難や課題があるなら、あくまでそれは社会のしくみや基盤、制度などを変える必要があり、社会が障害にあわせていく必要があるというまっすぐな姿勢を感じました。私たち健常者にとっての普通は、介護が必要であったり障害を持った方にとっての普通とは異なり、目標や憧れといったイメージが強いのかもしれません。

私は高槻ライフケア協会がその目標への補助の役割であると同時に、思いやりの矢印が一方だけでなく互いを向いている団体であることをロゴマークに落とし込みたいと考えていました。歩幅は違ったとしても進んでいく距離は同じ。手を取り合うような双方の重なりこそ高槻ライフケア協会の本質なのではないかと思い、その様子をロゴマークにしました。

高槻の「高」の漢字をシンボルとし、それを柔らかく表現しました。「重ねる」を大切にしたい気持ちからロゴマークを重ねると笑顔に見えるしかけを付けました。双方の存在があることで実現するものであり、どちらも重要である表現でもあります。全面重ねないのは自己決定の余地を残し、サポートするのは一部であるという意味を込めています。





最後に

資料の端に小さく添えられているだけでもシンプルなデザインで視認性が高く、一目で判別できるのではと思います。試しにアクリルキーホルダーにシールを印刷して貼ってみました。写真はスタッフと利用者の方が重ね合わせて笑顔を作っている構図を想像して試してみたものです。プリント機器の影響で色見の変化はありますが、ロゴマークを重ねながら笑う二人が想像できて微笑ましくなりました。資料は以上になります。このような経験ができたこと、大変嬉しく思います。参加させていただきありがとうございました。